

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふきのとう
（ユニット名）	Aユニット
所在地 （県・市町村名）	山形県米沢市塩井町塩野2057
記入者名 （管理者）	柴田 順一
記入日	平成 19年 11月 30日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流に力をいれており、保育園・小学校・地域行事への参加や近隣を散歩する等し、生まれ育った地域での顔見知りの方とのふれあいや、生活協力体制を築き上げている。また、その人がその人らしく尊厳を持って生活できるよう役割を持っていただいたり、個性を尊重した個別の対応を理念とし心がけて対応している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内研修会や申し送り、ミーティングにおいて理念の確認を行い共有している。また、日常でも職員がしてしまうのではなく、個性を大切に入居者一人ひとりに役割を持っていただき、個別の対応を実践できている。職員一人ひとりがそのように対応できるよう、個々のカンファレンスを定期的開催している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	夏祭りへの地域住民の参加や、毎月の広報誌の公民館への配布及び家族への送付、運営推進会議の記録の公開や送付、積極的な地域行事等の参加を図るなどし、理解を求めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が犬の散歩中に立ち寄ってくださって玄関で職員・入居者と触れ合ったり、買い物中出会っても立ち話になったり、近隣でお会いした時にはあいさつで終わらず、会話があるようなお付き合いができている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で実施される地域活動には職員が参加したり、行事(朝市や祭り)には入居者も積極的に参加できている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	AEDを設置しており、有事の際には貸し出しができる様話している。近隣でお会いした際や、入居者と買い物中にお会いした時にはお茶のみに来てくださるよう声掛けしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者も含め全職員で行っており、その評価が正しいかどうか外部評価で判断していただき、改善するところがあれば改善に取り組んでいる。評価後には全職員で結果について検討し、翌日より改善に取り組んでいる。評価を活かしよりよいホーム運営・サービス提供を目指している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者も多数参加しており、生の声での改善点も教えていただいている。地域の方々・家族からの意見も、申し送り等で報告し、即改善し向上に活かしている。活動報告やその他報告事項、評価についての考え方や報告も行っている。	○	会議メンバーに「知見を有する者」がいないので、現在依頼中。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者からは毎回参加をいただいております、会議の内容以外にも相談等で窓口を訪ねて指導していただくなど、良好な関係を持たせていただき、質の向上を目指している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加による知識の習得に努め、ホーム内研修会にて報告している。必要なケースは現在まで該当なし。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法や身体拘束についてホーム内研修会で話し合いをもっている。職場内でも見過ごされることがないように呼び掛けている。また、職員がストレスをためないよう働きやすい環境づくり、休憩・休暇をしっかりとるなど、虐待に繋がらないよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際は、どの時点でもかまわないので、疑問点等を聞いてもらうよう話している。分かりやすいよう内容を噛み砕いてゆっくり説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	他の入居者の前では言いづらい場合を考え、居室への訪問を行い、常の会話の最後にも「何でも言ってくださいね」と付け加え言いやすい雰囲気作りをしている。市の相談員が毎月来てくださり話を聞いてくださるし、家族等の面会の際にも直接話がしやすいような場面づくりをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の広報誌に担当者からの近況報告や連絡を記入し送付している。緊急的な連絡は電話にて逐一報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の設置をし、家族へ知らせているとともに、面会の際には必ずお茶をお出しし、近況報告を兼ねて意見等がないか確認している。ご意見を頂戴した場合にはその日の申し送りにて連絡し、即座に改善をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内研修会でも意見交換的に提案等がなされる場を設けている。全体の場合では言えない場合も考え、日常的に休憩の際等、話を聞き出したり、言いやすい雰囲気作りに努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員全員の携帯電話番号を把握し、緊急で動いていただくことがある旨伝えており、緊急な対応ができる様備えている。勤務の調整については毎月職員個々からすでに予定がある日を聞き取りしており調整している。パート職員を余分に配置しており、要望には柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要以上の配置変換はしておらず、異動がある場合は入居者への説明を行っている。また、異動になった職員も前ユニットに顔を出す等してダメージを防いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の受講はできるだけ受けられるよう配置しており、資格習得も推奨し、段階に応じた内容のものが勤務として受講できるよう配慮している。また、日常的に職員同士での指導が可能となるよう、職員数も余分に配置している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	置賜地区グループホームブロック会議に参加し、他ホームとの情報交換や意見交換を行っている。また、入所申し込みの際等には積極的に訪問したり、招いたりし交流している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会の開催や開催時には職員が参加しやすいよう会費を運営者が配慮している。また、休暇がしっかりとれるよう希望休の勤務への反映をしている。職員のストレスは入居者介護にも影響が出るため、職員の信頼関係・友好関係には採用時から配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の性格を把握し、個々がのびのび仕事ができるよう努めているとともに、指導の際も指導の仕方を個々にあわせる等配慮している。資格取得の励行や研修の受講の勧めや一人ひとりの意見を大事にし、日常的にも向上心をもって働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特に初期は密にかかわるようにし、家族等からの聞取りも十分行い、個人ケースの把握徹底を全職員に呼び掛けている。他の入居者との会話も誤解のないよう間に入る等し関わっている。食堂等人が多いところを苦手とする場合には居室にて会話をする機会を設けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日中仕事で夜間しか時間がとれない場合は、合わせて夜間に話す機会を設けたり、相手に合わせる配慮をしている。面会ごとに要望・意見・疑問についてさりげなく聞取りをし、報告事項はその都度電話にて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期にかかわらず、入所後も状態に応じケース別で説明している。本人の状態に合ったサービスを見極め、ホームで対応できない部分があれば説明し、他のサービスについても説明している。必要な支援の内容によっては応えられない場合もあるので、その旨説明し、どのサービスなら適正なのか説明している。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な作業の中で学ばせていただいている。家族的に関わりを持ち、何でも職員のみで行わず、行動を共にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会の機会を活用し、また、時間の許す限り会話する場面をもち、近況報告を兼ねながら、今後の支援方法や本人の悩み・状況について話している。入院された場合も毎日面会し家族とも連絡を取り合い対応している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時及び入所後も本人や家族面会時に双方の聞き取りをし、良好な関係が築けるよう配慮している。本人や家族の立場を悪くしないようお伝えする等、話す内容にも気をつけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に自宅を見に行ったり、本人から「家にいきたい」「会いたい」要望があった場合はその都度要望に応えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂内座席の配置やドライブの際の席順及び行事の際の席順等には相性・性格を把握した上で十分配慮しており、トラブルの予防に努めている。対人関係が苦手な方には孤立しないよう特に職員が間に入る等し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所先の相談に応じ、退所先との連携をとり、退所後の経過確認・面会等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者は介護員を兼務しており、日常的に入居者本人と会話を多く持ち、生活の様子を見ることで希望等の把握をしている。また、定期的なカンファレンスを開催し、職員全員で情報の共有を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞取りはもちろん、入所当初のみならず日常的に行っており、申し送り等で伝達している。また家族からも入所時や面会時に聞き取りを行い経過等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常的に状況を観察・判断し、本人・家族や医師の意見も考慮しながら毎月のミーティングの場で情報の確認・共有をし対応を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、職員間でも本人の意思を尊重し検討をしている。また、サービス担当者会議において本人・家族から意見をいただきながら計画に反映させている。なかなかサービス担当者会議に医師の参加がいただけないが、往診の際に意見を伺っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ADLの低下や急変により状況に変化があった場合は、本人・ご家族と今後のケアの持ち方について検討し、往診時の医師の意見も交えながら新たに計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や気づき等も考慮したうえで、カンファレンスを開催し、情報を共有しながら実践・見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	現在、本人の意向や必要性としては実例がないが、小学校や保育園の子供とのふれあいは大変喜ばれるので実践している。具体的には、小学校の相撲大会観戦、歌やおりがみ遊び・お茶会等の慰問、保育園は運動会・芋煮会・おとまり保育の食事会・クリスマス会・魚つかみ等で関わりをもっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	現在、本人の意向や必要性としては実例がないが、希望があれば実践したいと考えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、本人の意向や必要性としては実例がないが、希望があれば実践したいと考えている。地域包括支援センターの職員とは今後、運営推進会議への参加が予定されており協働体制をとって行く旨、考えている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣が医療機関のため、入所時に主治医の変更を申し出る方が多いが、基本的には以前のかかりつけ医のまま、本人・家族の希望されたとおりに医療を受けていただいている。医療機関とも連携を密にし、気軽に相談できる関係構築ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関として契約を交わしており、気軽に相談できる関係構築ができている。また、定期的な往診により本人の状況も把握していただき、診断・治療していただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	運営者が看護師であり、毎日朝夕夜三回来ており、血圧を測り、話を聞いている。隣が医療機関になっており、看護師がよく顔を出してくださっている。職員とも親睦会開催等の交流を図っており、気軽に相談できる体制ができている。日常的に少しの変化でも報告し、往診や処置、検査等行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	毎日職員が面会を行っている。面会の際、看護師や理学療法士と情報交換や相談をし、早期回復・退院に向けて連携している。退院後のホームでのリハビリについても助言をいただいている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人及び家族と共に職員が医師を交えて相談している。医師から病状や状況、事例等説明を受け、本人・家族・事業所とともに方針を共有し実践している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人及び家族と共に職員が医師を交えて相談している。医師から病状や状況、事例等説明を受け、本人・家族・事業所とともに方針を共有し実践している。全職員で研修会やミーティングにおいて方針・対応を統一し実行している。医師も定期的に往診し、職員と連携を取っていると共に本人の状況把握に努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化が悪影響であることを理解しており、以前の生活状況や流れ等の情報収集、交換を行いスムーズに住み替えができるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		個々の尊厳やプライバシーを重んじ、やさしく思いやりのある言葉かけを心がけている。個人情報の取扱いについては、申し送りや研修会等で注意を呼び掛けており、FAX送信の際も名前を伏せて送信し、電話で名前等の確認を行う等配慮している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		個々に合わせた説明を行い、日常的に希望・要望の聞き取りを行っており、生活の中で反映している。自己決定が難しい方には、いくつか選択肢をあげ本人に決定していただいている。本人主体の関わりを大切にしている。疑問には即座に対応し、納得いくまで対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		入浴の希望を伺ったり、入居者の声を大切にし、要望に応えている。天気のいい日に「ドライブに行きたい」要求や、「買物に行きたい」要望等、できるだけ即日中に実現するように関わっている。起床・就寝時間や食事・お茶の時間等も本人の希望に合わせて対応している。本人の希望を最優先に関わるよう心掛けている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		パーマをかけたい方を美容店に送迎して、トイレ介助が必要なので終わるまで付き添ったり、希望の理容店へ送迎している。衣類は本人と相談し選んでいただき、居室を出る際は整髪の声掛け・介助をしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		嗜好調査をし、個々の嗜好を把握しており、日常的にも何が食べたいかを聞き取りし提供している。調理は一緒に行い教えていただきながら作っている。旬の物を提供したり、特に庭のふきや栗、大根や白菜は収穫の喜びや新鮮な旬の味を楽しんでいただいている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		以前は晩酌をされている方がいたが、現在は「養命酒」を毎日飲まれている。おやつは白玉団子や寒天を作るなど手作りのものを一緒に作ったり、希望・好みによって全員が同じものという事がないようにしている。飲み物も個々に伺い希望の物を提供しているし、選択できるよう多種の飲み物を準備している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄間隔、排泄量、便臭や硬さ等を把握し、通じの悪い方の下剤はその日の状態によって増減の調整を行っている。定時での声掛けや誘導により、失敗を予防しトイレでの排泄を促している。その人が使いやすいトイレへの誘導や状況によっては居室でのポータブル使用等個々に合わせた対応をしている。プライバシーを重視し、自尊心を傷つけないようさりげない介助を心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者の聞き取りをし入浴していただいている。拒否の強い方には、無理強いはいしないが長期になるようなら「痒くなるとわるいから」「血液の循環よくなって体調よくなる」等、身体的理由での声掛けをし入浴していただいている。午前でも午後でも対応でき、夜間でも希望があれば職員の時間外対応ができる準備がある。温泉外出も実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常的に「疲れませんか？」等、伺いながら本人の体調を確認し時間にとらわれず休息していただいている。居室に一人でいられない方には皆がいる食堂内にある和室で横になっていただくなど配慮。また、夜間眠れない訴えのある方には、日中適度に運動していただいたり、就寝前にホットミルクを提供したり、本人に確認しながら休めるよう対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴を聞き取り把握し、日常の会話や生活の中で見せる昔の姿を職員間で情報の共有をし、得意分野でその人らしさが発揮できるよう関わっている。天気の良い日は外出の機会を多く持ち、公園や神社、道の駅や紅葉狩り、季節の花見学等に外出している。冬でも飛来した白鳥見学等、車内で寒暖の差を感じない配慮をしながら外出している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に近所のスーパーに出かけたり、私物の購入希望があれば、個別に買物外出するなど対応している。個人で金銭所持していない方でも、欲しい物があれば事業所立替でお金を渡し買物していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きたい場所の聞き取りを行い、買物外出やドライブ、墓参り、故郷めぐり等、ホーム計画での外出だけでなく、個々の希望によって外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉や足湯、パチンコや宝くじ売店、季節の花(桜・つつじ・あじさい・あやめ・ゆり・ダリヤ等)見学、紅葉狩り、外食等に外出する機会を設けている。冬でも飛来した白鳥見学等、車内で寒暖の差を感じない配慮をしながら外出している。	○	ホーム内行事への家族参加は行っているが、家族参加の外出を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればそのように対応している。電話は自分で番号を押せない場合は、押してからお渡しし話していただいている。また、ゆっくり落ち着いて話ができるよう居室や廊下の静かな所への誘導など配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際は必ずお茶とお茶菓子を提供し、ゆっくりしていただいている。職員は明るいあいさつを心掛け、ゆったりと関わり時間を気にさせるような発言をしないよう注意している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修会にて身体拘束となる行為等を熟知しており、行為がもたらす精神的苦痛や身体的苦痛を理解している。徘徊がある人に対しては、本人が満足するまで、さりげなく一緒に歩いたり、外に行きたい方には付き添って散歩に出る等、抑えつけることが逆効果になることを理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	ホームは常に開放的にしており、一部ドアにはセンサーを取り付け、人が通ると携帯バイブレーターで知る事ができる仕組みや、風鈴を取り付け音になる工夫をしているが、何より職員は、誰が何処で何をしているかをできるだけ把握するように努めており、見守りを重視している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	誰が何処で何をしているかをできるだけ把握するように努めており、見守りを重視している。居室に入る際には必ずノックをし、様子を見に入ったと思わせないよう「寒くないですか？」等声掛けをしながらさりげなく確認・把握に努めている。夜間は睡眠の妨げとならないよう、静かにペンライトを使用する等して安否確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態の把握をしており、はさみを持っている方もいるが、毎日所在の確認を行っている。使用している際は、さりげなく見守りを行っている。包丁を使って作業をしている方の傍には必ず職員が付き添いを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居室内で転倒が心配される方の居室へマットを敷いたり、シューズが履けない方でスリッパを使用されている方には、立ち上がり時滑らないよう滑り止めを設置。薬は個人別にし、1包ずつに記名及び朝昼夕の別を記入し誤薬防止に努めている。一部ドアにはセンサーを取り付け、人が通ると携帯バイブレーターで知る事ができる仕組みや、風鈴を取付、音になる工夫をし無断外出防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に3回程度の訓練をホーム内外で行っている。AEDも設置しており、併せて訓練している。職員の採用時には緊急時対応マニュアルを配布し周知している。状態の変化があれば申し送り等で、その都度全職員に周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を中心に「消防計画」の作成をし、火災予防に努めるとともに定期的な避難訓練や通報訓練により、設備の使用方法的確認、避難誘導方法の学習等を行っている。地元消防団団長が近所にいるため、常より有事の際の協力依頼している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所の際の契約時に説明している。入所後も本人・家族の意向を最優先に尊重し、職員間や本人も交えカンファレンスを行い検討し、状態の変化や可能性についてもその都度報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや朝夕の出勤時は必ず全員にあいさつをする事にしており、多数の目で状態の観察・確認を行っている。少しの変化でも安易に捉えず、看護師である運営者に報告、隣接の医療機関へ連絡、指示や往診により対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の目が届く場所に個々の薬名・効能や副作用が確認できる書類が備えてあり、熟知している。服薬支援は個々の状態に合わせて行っており、誤薬や重複服用防止のため一人の担当職員が責任を持って行っている。特に薬の変更があった場合は申し送りにおいて全職員に周知徹底し、症状の変化の観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤のみに頼らず、腹部のマッサージや歩行等による運動の呼び掛け及び水分摂取量の把握とともに声掛けや好みの飲み物の提供により水分摂取促進に努めている。また、野菜の苦手な方には刻んで摂取しやすい形態にしたり、繊維の多く含まれる寒天等の好みの食物の提供等の配慮をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後義歯の洗浄、ブラッシング、またはうがいの声掛け及び支援をしている。就寝前は義歯は洗浄液に付けおこう声掛け及び支援をしている。いずれも個々の状態に合わせ、できることは本人にさせていただくよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態を個々に併せたり、苦手なメニューの時は代替食品の提供を行っている。飲み物は好みのものを摂取していただけるよう、多様な飲み物の準備ができています。また、ストロー（状態に応じ長さも合わせている）や飲みやすい携帯のコップ、また容器をかえてみるなど飲みたくなる工夫もしています。メニューは調理師が入居者と相談し立てているが、定期的に栄養士に点検・助言してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルにより対応している。それぞれの感染症に対する対応を定期的に研修会にて学習している。日頃からうがい・手洗いの励行、排泄処理方法の周知・徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日台所と調理用具は消毒を行っている。食材は週に3回、近所のスーパーより購入しているが、賞味期限の確認・徹底を図っている。調理はできる限り食事時間に出来上がるよう傷まないよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を置き明るい雰囲気を作り、日中は常に開錠しており、職員の対応もマナー講習会の開催をするなどし訓練しており、近隣住民ともコミュニケーションが取れている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には季節感のある装飾をし、玄関・廊下・食堂・居間には季節を感じられる花を置き、陽の指す場所にはレースのカーテンと遮光カーテンの二種類を設置し調整している。建物脇は交通量の多い道路になっているが、音が気になることはない。台所・居間には常に職員がおり、快適に過ごせるよう声掛けや見守りをし対応している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはコタツを設置、気の合う数名でコタツに入りお茶のみをされたり、ソファを設置しており畳に降りられない方が腰掛けテレビを見たり、横になったりされている。食堂の座席は本人の意思を尊重し、また相性・性格等を十分考慮し決めている。日当りのよい廊下ではのんびりひなたぼっこをされる方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時から使い慣れたものを使用していただくよう声掛けを行い、ベッドの位置・向きも本人に選定していただいている。また、家族の宿泊時は一緒に過ごしていただけるよう、居室内に簡易の畳みを設置し宿泊していただいている。入所後も好みのものや希望のものがあれば、家族・本人と相談し、家族に持参していただいたり、一緒に買物し設置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室・廊下ともエアコン及び空気清浄機が設置しており、暖房を使用する時期には全室加湿器の設置も行っている。こまめに訪室し、温度等の確認をし調整を行っている。機械にのみ頼らず、窓の結露具合や、湿度計により湿度も調整している。また、電気毛布に関しても同様にこまめな確認・調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置しており、居室内の家具の配置も手がつけるよう配慮しており、できるだけ自立した生活を送っていただいている。転倒の可能性がある方には予防マットを敷いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	会話や対応は相手に合わせるよう心がけている。どんな場合も訴えをいったん受け止め、さりげなく気づいていただけるよう配慮している。日常的にゆったりのんびり関るよう注意しており、混乱や動揺を防いでいる。本人の意思を尊重し、自己決定が難しい方にも、さりげなく本人に決定していただけるような話し方を工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ふきや栗、柿や大根・ねぎや白菜等の収穫及び草むしりや流しそうめん、芋煮会、散歩等ホーム庭での活動も多く取り入れている。ベランダはないが、日当りのよい廊下でひなたぼっこをされたり、リハビリ等をしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に恵まれ、庭には畑や花があり、野菜（大根・白菜・ねぎ等）や栗の木、柿の木、ふき等の収穫や旬の味を楽しんでいただいている。隣接して医療機関があり、密な連携がとれており、急変時や有事の際にはすばやい対応が可能となっている。また、運営者が看護師であり、敷地内に居住していることから24時間の対応が可能。地域の小学校や保育園、地区との交流もあり協力体制ができている。個性を重視し、その人がその人らしく入居者主体の生活が送れるよう支援している。役割を持ち生きがいを感じながら生活できるよう個々の能力や状態の把握に努め、ホーム内ばかりで生活するのではなく、外出や散歩など戸外での活動機会を多く取り入れている。また、外出は個別でも対応をしており、より個性を尊重した関わりに配慮している。ホームには職員が作詞作曲した「みんなは家族」という歌もあり、皆で歌っており明るく笑顔の耐えないホームである。